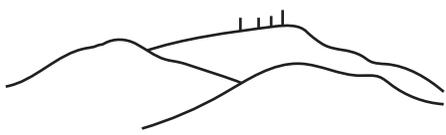


Youth Manna

2021/5/17 - 5/23



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/5/17(月)

I 歴代誌 15 章

ペリシテ人との戦いにも勝利したダビデは、神の箱をオベデ・エドムから定められた場所へ運ぼうとしていました。ダビデは、「レビ人こそが神の箱を運ぶという役割を神様から与えられている(2節)」と言い、レビ人達にその役目を担わせました。また、モーセが神様から与えられた言葉の通りに(15節、民数記4:6)彼らはそれを実行しました。更に、レビ人達の間には、神の箱を担ぐだけではなくて賛美をする人(16-21節)、荷物を担当する人(22節)、箱を守る人(23-24節)もいたようです。

私たちは、神様からどんな役割が与えられているだろう。どのように私たちはそれを果たしていくべきか、ダビデやレビ人の姿から考えてみよう。

2021/5/18(火)

I 歴代誌 16:1-22

神の箱を無事に都に運べたことを喜び、神様の前に礼拝がささげられたよ。このことはイスラエルの民全体で喜び祝われ、その後でダビデはレビ人の中から神様に仕える賛美チームを任命しているね。

世界の国々と比べてイスラエルは大きな国ではないけれど、神様こそ全地を統べ治める方と賛美することはどれほど人々の力となったことだろう。神様は遥か昔にアブラハムと結んだ契約を永遠に忘れることのない方です。僕らも永遠に変わることのない神様にどこまでも信頼して歩みたいね!

この世の価値観に呑まれそうになったり、周りに流されることはあるかな? 賛美と祈りを持って、神様に目を向け続けよう! 今、心を定めて自分が神様のものであることを告白しよう!

2021/5/19(水)

I 歴代誌 16:23-43

ここには神の箱を迎えた民の賛美が記されている。23~27節は詩篇96篇とほぼ同じであり、これは、他の神々との比較の中で主なる神の偉大さを告げる言葉である。旧約聖書にはこの言葉が頻繁に出てくる。イスラエルの民にとって、他国の神々に引き寄せられるのが大きな課題だったからである。28~36節は、皆で主の祝福を喜び、そして感謝しようという趣旨である。だからこそ最後の部分では、主に祈り求めていく、ということが掲げられている。

この時ダビデが喜び、主に感謝した賛美は、神の確かさを表すものともなった。神の確かさを思い、祝福されていることを感謝しよう!

2021/5/20(木)

I 歴代誌 17 章

神様のために神殿を建設しようと思ったダビデは預言者ナタンに相談し、ナタンも賛成しダビデに勧めた。しかし、神様はそれを否定された。理由として、①神様は神殿を求めてはおられない。(5.6)、②礼拝の人々の務めは、自分の最善を尽くすことではなく、神様のみこころに従うことにあった(7-10)、③神様は神殿という建物ではなく、王国を建てあげることにあった(10-14)

私たちがベストだと思うことが神様のみこころとは限らない。だからこそ何をすることも神様が喜ばれることを求めよう! そして何が神様が望まれていることか分かったら、信仰によって実践しよう!

2021/5/21(金)

I 歴代誌 18 章

「その後のことである」と18章は始まるね! 昨日の箇所を思い出そう! ダビデが神様から語られたこと、ダビデが祈り告白したことは大きな意味を持っていたように思えます。その後、神様はダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられました(1-6)。自分一人で戦いに行くのではなく、まず第一に神様を求めよう! 神様に信頼し、全てを与えることのできる神様に依り頼もう!

後半にはダビデの家来の名が記されているね。この箇所は、神様がダビデのために備えてくださった人たちであることを伝えていくよ。僕らにも神の家族、信仰の仲間がお互いに必要であることをいつも覚えていよう! 家の教会のメンバーのために、リーダーのために祈ろう!

2021/5/22(土)

I 歴代誌 19 章

父親の葬儀に誠意をもって訪れたダビデに対して、敵意を剥き出しにして使いの人を送り返したアンモン人の王様ナハシュ。力をつけているダビデ率いるイスラエルを恐れ、同じくその力が邪魔だと感じているアラムたちと手を組んだ。

目に見える状態ではダビデ側が勝つような状況ではなかったけど、実際はダビデたちが圧倒的な勝利を治めたね。それは、將軍ヨアブが言ったように「主が、御目にかなうことをされる」ということが実現した結果だったんだ。ヨアブは神様の心に信頼して、戦いに勝利した。

私たちは神様の目にかなうことを求めて、行動しているかな? 今日神様の目にかなう、神様に喜ばれることを一つ考えて実際にしてみよう!

2021/5/23(日)

II コリント 3 章

今日はペンテコステ礼拝の日だね! 当時伝道者や教師が地域教会を尋ねる際には推薦状が必要だったけど、パウロにとってそれはコリント教会の人々だと言っているね。そして全ての宣教の働きは聖霊によることだと言っているよ。

さらにパウロは、自分たちの務めは文字(律法)にではなく御霊に仕えるものだとしている。これはペンテコステ以降に明らかにされたことで、今も僕らは聖霊が導き働かれる時代にいるよ! 17,18節の約束をよく読んで、信じる私たちの内におられる御霊によって、さらにイエス様の姿へと変えられ続けるよう祈っていきましょう! ○私たちの内におられる聖霊は、どのように君を導いているだろう? 聖霊の働きを妨げているものはないかな?